

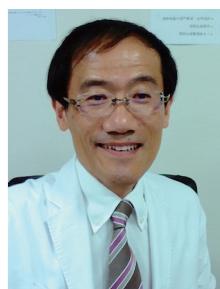
# 100th

# 聽診記

百周年記念号



慶應義塾大学医学部  
内科学教室同窓会



村上 圓人  
(1984 年卒 63 回生)  
佐野厚生総合病院  
病院長

お父さんイチゴの国に転勤す。妻から一句を贈られ、2017年6月、22年間勤務した日野市病院を去り、佐野厚生総合病院に病院長として異動しました。初めて降り立った佐野は自然豊で、ゆったり、のんびりとした空間と、プレミアムアウトレット、イオンモール、ビックカメラ等の新都心が隣接する自然と文明が混在するとても魅力的な街です。

放てば手に満ちたのは、深刻な医師・看護師不足等の数々の課題でした。赴任後5年間、優秀で実直な病院スタッフ達と共に汗をかき、大学医局を始め多くの三四会の皆様に助けられて変革は進行中です。手始めに人材育成をスローガンとして掲げて、研修センターを設立し研修体制を一新しました。ダビンチ手術導入、新電子カルテへの移行、災害拠点病院承認、透析センター全面更新、経営健全化等を達成。2022年度は過去最多の常勤医師数・内科専攻医数・看護師入職者数を更新し、外来化学療法センターならびに内科病床の拡大、心臓カテーテル装置更新とアブレーション導入の予定です。

佐野厚生総合病院は、医師少区域に位置するが故に多くの症例に恵まれ、内科入院患者は200人を超える内科中心の病院です。熱心な指導医と自由度の高い環境が整っており、志が高い若者が己を高めるには最高の道場です。私は“中興の祖”として、5疾病6事業をやりきる中核病院へと進化を進めていきたいと思います。

# 聽診記

第59号・平成30年9月



慶應義塾大学医学部内科学教室同窓会

## 腎研の想い出

村 上 円 人

(昭和 59 年卒 63 回生)

1987 年に発表された ACE 阻害薬が降圧薬であるにも関わらず、心不全の予後を改善させるというコンセンサス研究。その結果は衝撃的だった。それに関する猿田享男先生の名講演に魅了され、小生は 1988 年 4 月に猿田教授体制の 3 期生として当時の食養研究所（食研）にあった腎研の門を叩くことになった。当時、猿田先生のミスター慶應的なかっこよさは群を抜き、臨床と研究の“二刀流”のその実力と指導力は異彩を放ち、多くの内科医が腎研に入局した。当時は研究室全体が労基署の自由特区空間であり、そのカリスマの背中をみて門下生は成長した。小生もその時期に臨床医としての“根っこが生えた”と感じている。

現在も学会等で当時の戦友達と交流して日々エネルギーをいただいている。とてもありがたいことだ。熊谷裕生先生、中元秀友先生、竹中恒夫先生、佐藤敦久先生、市原淳弘先生、岡田浩一先生、柴田洋孝先生、菅野義彦先生等は他大学の教授として活躍中である。現在、医局は伊藤裕教授体制となり研究活動も盛んで、脇野修准教授グループから Nature Medicine に論文が掲載されたことはサプライズであった。また、門川俊明教授が学生教育に尽力し 2018 年の医師国家試験の 100% 合格に貢献したことはさすがである。

小生が感じる慶應医学への期待は、サイエンスマインドを土台にした“日本一の臨床医を育てる”ことと感じている。2018 年 5 月に“1 号館”がついに開院した。慶應医学はその近代的建築美と高い機能性を手に入れて新しいステージを向かえた。最後に、これから日本の医療界のリーダーになる後輩諸君へのメッセージとして、『東京・神奈川の医療事情は特殊であり、日本の平均的な医療を知るために 2 年ぐらいは東京・神奈川以外の地方病院を経験すること、それを経験して初めて日本全体の医療を語れる真のリーダーになれる！』 という小生のつぶやきを贈らせていただく。